

編集後記

読者の皆さんお元気でしょうか。平成23年3月に発生した東日本大震災では巨大地震と津波に襲われ、大きな被害を被りました。それから5年目を迎えて被災地においては、さまざまな災害に強い都市作りが始まっています。

一方これから起こる可能性の高い巨大地震に備えて防災、安全・安心を確保する社会基盤整備についても多方面でさまざまに取り組まれています。11月号では、これらの取り組み事例と東日本大震災の復興・復旧の現況を紹介しました。

これを書いている頃、連日猛暑を記録しております。39℃以上のところがたくさん出ました。また、御嶽山の犠牲者の捜索が再開されました。最近、火山の活動が活発化しているのか、口永良部島でも噴火がありました。改めて、火山列島みたいなどころに住んでいるのを実感しました。

防災に関連する分野は、たくさんあります。ハード面、ソフト面の両方から対応することになります。資金と効果の両面は、トレードオフの関係ですから、最適な点を見出すことが大切です。

今回、防災システム、治山治水対策、液状化対策、復興への取り組み、地震・津波、情報伝達、制震などにおいて、行政、技術における最新の取り組みを書かせていただきました。

巻頭言は、常田様に書いていただきました。快諾いただきありがとうございます。また、和田様からは、

特別報文をわざわざ寄稿いただきありがとうございました。

建設機械の能力は、人力の何百倍もあります。江戸時代の河川の改修などは、すべて人力ですが、こういうのは、現在の機械力をもってすれば、極めて短時日の工期で達成できる気がします。もし、大規模な河川の付け替えなどがあれば、情報化施工など、自動機械などにより精度よく立派な構造物ができます。ただ、自然災害の場合は、通常の建設工事とは、桁違いの工事量になりますので、建設機械を使用してもかなりの年月がかかります。しかし、今日の建設機械がなかったら、復旧は、大変な労力を要したことは間違いのないと思います。ここまで進化した機械を作った方々に感謝しなければなりません。

吉丸様からは随筆建機ミュージアムをありがとうございました。建設機械は、子供には大きなおもちゃに見えるでしょう。建設機械を見たり触ったりすることに喜びを見出す人が多いことに驚きます。この世界にいと建機が、そんなに興味を掻き立てるものとは思って居ませんでした。

まだまだ、防災の完全制覇は、未来永劫不可能な気はしますが、技術革新によって劇的変化が訪れるのを期待しています。

今回の記事が、何らかのお役に立てば幸いです。

最後になりますが、お忙しい中執筆いただいた皆様には、大変お世話になりました。この場を借りて厚くお礼申し上げます。

(加藤・江本)

機関誌編集委員会

編集顧問

今岡 亮司	加納研之助
後藤 勇	佐野 正道
新開 節治	関 克己
高田 邦彦	田中 康之
塚原 重美	中岡 智信
中島 英輔	本田 宜史
渡邊 和夫	

編集委員長

田中 康順 鹿島道路(株)

編集委員

新田 恭士	国土交通省
大槻 崇	国土交通省
三浦 弘喜	農林水産省
早矢仕 明	(独)鉄道・運輸機構
加藤 誠	鹿島建設(株)
立石 洋二	大成建設(株)
岩野 健	清水建設(株)
赤井 亮太	(株)大林組
久保 隆道	(株)竹中工務店
安川 良博	(株)熊谷組
中村 優一	(株)奥村組
京免 継彦	佐藤工業(株)
岡田 英明	五洋建設(株)
齋藤 琢	東亜建設工業(株)
赤神 元英	日本国土開発(株)
相田 尚	(株)NIPPO
岡本 直樹	山崎建設(株)
太田 順子	コマツ
大塚 清伸	キャタピラー・ジャパン(株)
小倉 弘	日立建機(株)
上田 哲司	コベルコ建機(株)
石倉 武久	住友建機(株)
原 幹生	(株)KCM
江本 平	範多機械(株)
竹本 憲充	施工技術総合研究所

事務局

日本建設機械施工協会

12月号「ICT・ロボット化等の先端建設技術特集」予告

・次世代社会インフラ用ロボットの開発・導入 ・革新的研究開発推進プログラム ImPACT
 ・建機メーカーが描く「スマートコンストラクション」の未来 ・建設機械の自動化を核とした次世代施工システム ・自律制御型建設機械の開発 ・無人化施工による応急対応技術とその基盤となるデジタル通信技術の開発 ・小型多機能施工機械の自動制御化による路盤工事の合理化検討 ・MG数均・転圧管理システム Geo-CIS / CTS ・大水深対応型水中作業ロボットの開発
 ・油圧ショベルの遠隔操作のためのCG重畳表示システム ・遠隔操縦用ロボット DOKAROBOTの開発 ・機械土工の自動化の現状と将来 ・施工CIMの最前線 ・現場力を高めるBIM最前線 ・クラウドを活用した建物管理システムの高度化

【年間購読ご希望の方】

①お近くの書店でのお申込み・お取り寄せ可能です。②協会本部へお申し込みの場合「図書購入申込書」に以下事項をもちきり記入のうえFAXにて協会本部へお申込み下さい。

…官公庁/会社名、所属部課名、担当者氏名、住所、TELおよびFAX

年間購読料 (12冊) 9,252円 (税・送料込)

建設機械施工

第67巻第11号 (2015年11月号) (通巻789号)

Vol.67 No.11 November 2015

2015 (平成27)年11月20日印刷

2015 (平成27)年11月25日発行 (毎月1回25日発行)

編集兼発行人 辻 靖三


印刷所 日本印刷株式会社

発行所 本部 一般社団法人 日本建設機械施工協会

〒105-0011 東京都港区芝公園3丁目5番8号 機械振興会館内

電話 (03) 3433-1501; Fax (03) 3432-0289; <http://www.jcmanet.or.jp/>

施工技術総合研究所	〒417-0801 静岡県富士市大淵 3154	電話 (0545) 35-0212
北海道支	〒060-0003 札幌市中央区北三条西2-8	電話 (011) 231-4428
東北支	〒980-0802 仙台市青葉区二丁目16-1	電話 (022) 222-3915
北陸支	〒950-0965 新潟市中央区新光町6-1	電話 (025) 280-0128
中部支	〒460-0002 名古屋市中区丸の内3-17-10	電話 (052) 962-2394
関西支	〒540-0012 大阪市中央区谷町2-7-4	電話 (06) 6941-8845
中国支	〒730-0013 広島市中区八丁堀12-22	電話 (082) 221-6841
四国支	〒760-0066 高松市福岡町3-11-22	電話 (087) 821-8074
九州支	〒812-0013 福岡市博多区博多駅東2-4-30	電話 (092) 436-3322

本誌上への広告は  有限会社 サンタナ アートワークス までお申し込み、お問い合わせ下さい。

〒103-0013 東京都中央区日本橋人形町2-21-5 井手口ビル4F TEL: 03-3664-0118 FAX: 03-3664-0138

E-mail: san-mich@zam.att.ne.jp 担当: 田中